

「新たな旅のスタイル」に関する検討委員会

2021年9月13日

株式会社JT B
ツーリズム事業本部 事業推進部
地域交流担当部長 毛利直俊

JTBグループが考えるワーケーション

コロナ禍をきっかけに変化

- リモートワークの加速 (DX)
- 多様で柔軟な働き方の制度導入 (フレックスプレイス / マルチロケーションの導入、副業、ふるさとワーク)
- オフィスの削減、出張回数減
- 「会う」ことの価値変化 ※会うことの価値が問われる

企業にとっての価値

- リクルーティングの重要な施策
- 環境を変えることで生まれるアイデア
- コミュニケーション活性化、人材育成の機会 (テレワーク中心の働き方導入後)
- SDGsの取組・地方創生を通じた社会への貢献
- コスト削減 (オフィス減、通勤定期廃止、出張回数減)
- 社員の健康管理 (メンタルヘルス含む)



地域にとっての価値

- 関係人口・交流人口の拡大
- 二拠点居住、移住定住者の増加
- 空き家など遊休資産の活用
- 宿泊の平準化、分散化
- 消費額増、雇用の創出
- 企業と市民の交流機会の創出

企業・地域双方の課題解決につなぐJTBのワーケーション

コロナ禍以前より人財育成・確保のための魅力ある会社づくり

- ・柔軟な働き方が出来る仕組みづくり（テレワーク環境の整備、紙文化からの脱却、仕事の可視化）
- ・旅行に行く機会の創出（ブレッジャー、ワーケーションの導入）
- ・年休取得率100% 平日休暇、長期休暇を気兼ねなく取れる文化



ホノルル支店のワーケーションデスク

改革の機会と捉え一気に改革を推進

- ・ふるさとワーク制度の導入（転居を伴わない異動）
- ・勤務日数短縮制度の導入（年間出社日数 177日～225日の5パターンから選択）
- ・副業ガイドラインの制定（副業を通じた自己実現や社会貢献を通じた社員・会社の成長）
- ・テレワーク勤務制度の拡大
（在宅・サテライト・ワーケーション・モバイル勤務に関して取扱規則を改定）
- ・結果的にオフィスの削減とフリーアドレス化の推進

オフサイトミーティング

- ・自宅やオフィスから離れた非日常空間でのミーティングを行うことで、コミュニケーションを促進。
- ・自社会議室や貸し会議室では生まれない、ユニークな発想やアイデアの創発。
- ・目的に応じた施設、宿泊先、交通手配、現地プログラムをトータルコーディネート。



スノーピーク監修
CAMPING OFFICE KANNONZAKI (神奈川県横須賀市)

三菱地所協業
WORK × ation Site 南紀白浜



各社へのヒアリングから見えてきた課題

- ・コロナ疲れが顕著に。社員の精神的な健康の回復、息抜きの場が必要。
- ・東京の若い社員の住宅は狭い（6畳1間）働く環境整備が必要。
- ・オンラインが中心の働き方で関係が希薄化。交流機会をつくりたい。
- ・新入社員の離職率が深刻。状況を改善したい。
- ・福利厚生費が余っており、社員に今までとは異なる形で還元したい。
- ・転職サイトでテレワークの可否など「自由に働ける」ことが求められるようになった。良い人材を採用するためにテレワークなどの制度は必須。
- ・テレワーク導入により長期間、会社を離れることが可能になり、今まで導入できなかった地域貢献（ボランティア）や社員教育の機会などに活用したい。

健康

コミュニケーション

環境・制度
整備

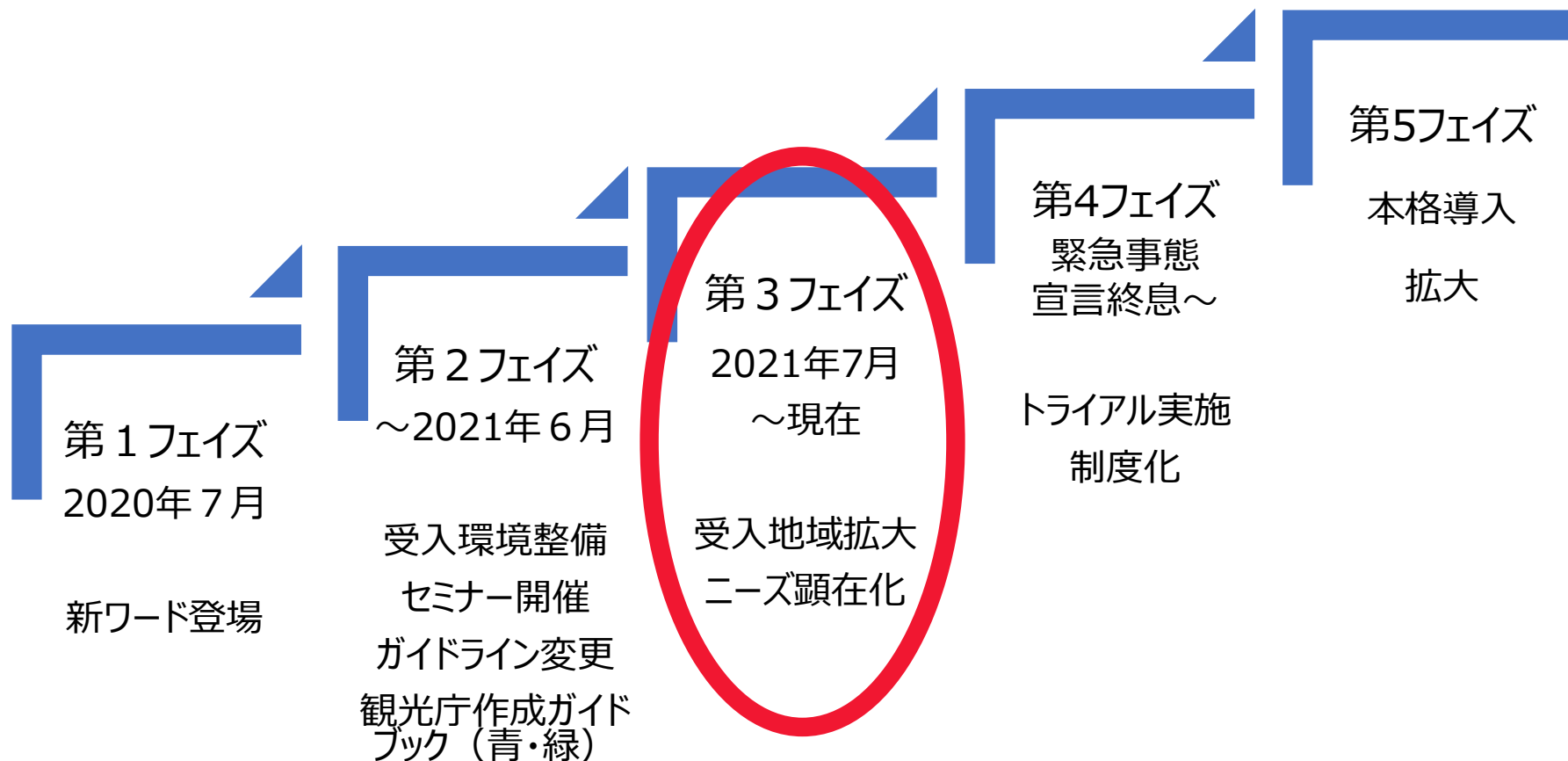
福利厚生

人事戦略

CSR

企業	取組内容
A社	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動（毎年社員が参加するボランティア活動）の一環として制度導入を検討。 ・受け入れをしてくれる地域と活動を探している。
B社	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークを導入することをから始め、今は様々な制度を変更し自由に働ける環境は整った。 ・社員の自主性・自律性を高めるための次の施策を検討。 ・社の帰属意識の向上をつながると考えている。 ・人事担当者も経験したことがないので、コロナ感染状況が収まり次第、トライアル実施を検討。
C社	<ul style="list-style-type: none"> ・年休取得率を上げるためにワーケーションの導入を検討。 ・施策として交通費などの金銭的な補助やサテライトオフィスなどのハード面整備を考えている。
D社	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの取組の一環として導入を検討。 ・社員が地域の社会課題に触れる経験の場になると考えている。 ・地域の社会課題を理解するために、自治体との意見交換の場を設定して欲しい。
E社	<ul style="list-style-type: none"> ・疲労による健康が悪化する社員が増えてきた。働く場所を変え、リフレッシュが必要。 ・自然の中にあり、東京から1時間半以内、ベランダが付いている宿泊施設を手配して欲しい。

企業	取組内容
F社	<ul style="list-style-type: none"> ・本社を完全に無くし、フルリモート制に移行。 ・社員間のコミュニケーションの場づくりなどを目的にワーケーション制度を取り入れたい。
G社	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で福利厚生費が使われていない。また通勤費などの経費も大幅に減っている。 ・新たな福利厚生の在り方を検討する必要がある。 ・部署全体（400名）でワーケーションを実施したい。※軽井沢で決定 ・ワーケーションについて税務的な面でのアドバイスが欲しい。
H社	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークを導入。働く場所の制限は全くないので、地方などで仕事をしたい。 ・社員が活用していないのは、コロナ禍ということと、旅費は自己負担であること。 ・自治体の補助などの情報があれば教えて欲しい。
I社	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の経営戦略上、自由な働き方は必須。導入しなければ良い人材は採用できない。 ・役員主導で導入を検討。率先してワーケーションを実施。
J社	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の中小企業の会合でも8割はオンライン参加。 ・ただでさえ厳しい採用環境の中で、地方の企業こそ新しい働き方を導入すべき。



ワーケーションに関する様々な情報を専用WEBサイトで発信



無料ダウンロード資料
『ワーケーションへの旅立ち』
(ビジネス漫画 32ページ)

WOW!orkation STORY™ ワーケーション総合情報サイト



- * 企業様向けの専用ページあり。
- * サービス・事例・コラム・無料ダウンロード資料などを発信中

